

むすび プラス

みんなの組合員活動 Vol.168

ともに育ち 学びあう活動—実践編

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を“むすび”ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！

政策テーマ別企画で開催しました！

パルシステム東京の委員会は、利用普及、仲間づくり、地域課題の取り組み、政策全体の取り組みと4つの取り組みに沿って活動しています。今回は政策の取り組みとして環境と平和に関する企画のなかから、その一部を紹介します。



家計も地球も笑顔になれる 環境キャンペーン省エネ出前講座

久が原委員会

省エネで温室効果ガス(CO₂)の削減はもちろん、電気代の節約もと、パルシステム東京の省エネアドバイザーを講師に、地球温暖化や省エネのことを学習。

まずは、地球温暖化による様々な影響について聞き、CO₂の削減が急務だと再確認。家庭での省エネでは、消費電力トップ4といわれる照明、冷蔵庫、エアコン、テレビについて、上手な省エネ法を聞きました。特に年間電力消費量トップの照明で、白熱電球、電球型蛍

7月28日

光灯、LED電球を実際に点灯し、明るさや消費電力の違いを実感。最新型の冷蔵庫は消費電力が10年前の約半分との話にびっくり！エアコンの使い方も工夫次第で省エネにつながるなど、具体的で、すぐに活用できるアドバイスに、参加者の省エネ意識が高まりました。



夏休み企画 ワクワク、ドキドキ親子実験教室

国分寺委員会

親子で楽しみながら、パルシステムのよさを実感できる、実験参加型の企画を開催。PLA(パルシステム・ライフアシスタント)を講師に、歯磨き粉、洗濯用洗剤を使って、環境や身体にやさしいパルシステム商品と市販品の違いを学びました。

歯磨き後にみかんジュースの味を確かめる実験や、洗濯用洗剤での蛍光増白剤使用の有無を調べる実験でも、パルシステム商品では反応が出ないことがわかりました。また、パルシステムのSDGsの取り組みについても解説。「話を聞き、今まであまりエコな暮らし方をしていなかったなどわかった」との感想がありました。



実験やSDGsの話を聞き、何を選べばいいのか目が養われました

8月10日

石けん出前講座

8月22日

わくわく福祉委員会

「なかなか落ちない足袋の汚れをきれいにしたい！」の声から、しつこい汚れをきれいに落とす方法や、自然派洗浄剤の上手な使い方を学ぶことになりました。講師はパルシステム東京の石けん講師です。

界面活性剤とは何か、石けんが汚れを落とすしくみ、合成洗剤との違いを知りました。汚れ落としのポイントとして、汚れが酸性かアルカリ性か、その性質を見分ければ、しっかり汚れが落とせることもわかりました。そして、洗浄力と研磨作用があり、手にもやさしくコスパもいい、講師おすすめの重曹を使って、シンクの汚れ落としに挑戦！「家にあるけどイマイチ使いこなせなくて。さっそく試したい」との声が。



重曹や酸素系漂白剤を使ってシンクがピカピカに。掃除の極意は汚れをためないこと！



慰靈碑めぐり 東京都慰靈堂を訪ねて歴史を知ろう

7月18日

南部平和委員会

平和について考える企画を継続して開催してきました。今回は、1923年の関東大震災と1945年の東京大空襲で被災した方々を慰靈する東京都慰靈堂、震災と空襲の資料を展示する東京都復興記念館など、震災と戦争を伝える施設や慰靈碑が点在する「墨田区横網町公園」を訪問。アジアの平和を模索する活動を続ける講師を招き、数ある施設の中から関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑に祈りを捧げ、東京都復興記念館を見学しました。

参加者からは、「講師の説明で、知らないかった歴史を知ることができた」「公園の存在を多くの人に知ってほしい」の感想が聞かれました。



震災時、陸軍被服廠が移転し、空き地だった場所に避難した人々は、周囲で広がった火災にのみ込まれ、38000人が犠牲に



お出かけピースカフェ 「東京大空襲・戦災資料センター」

すみだ環境委員会

ロシアによるウクライナ侵攻で、戦争が実際に起きている今、東京大空襲を学ぶことで、改めて戦争について考えたいと企画しました。

1945年3月10日未明、アメリカ軍の無差別爆撃により、わずか2時間半余りで東京の下町一体が火の海となり、約100万人が被災、10万人が犠牲となりました。当時6歳だったという空襲体験者の「心が壊れてしまった」という体験談と、60歳まで家族にも話せなかっただという思いを聞き、戦争の恐ろしさを実感。参加者から「今、なんとかしなければと感じた」との声も。企画担当者は「貴重な体験談を伝えるため継続して企画していきたい」と話していました。



講師は、墨田工業高校の地下室に避難し、寒さと恐怖に震えながら母の背中で一夜を過ごしたといいます

8月26日



ピースカフェ 難民支援の現状を知ろう

8月8日

狛江委員会

世界の難民問題への理解を深めようと、2022年度平和カンパ贈呈先、AAR Japan [難民を助ける会] から講師を迎へ、ウクライナでの活動も含め、難民支援の取り組みについて聞きました。

世界には、8,930万人（2021年末時点）の「難民」や「国内避難民」がいます。AARは、アジア、中東、アフリカなどで、水・食料・衛生用品支援をはじめ、地雷除去、教育支援などに取り組んでいます。現在は、ウクライナの難民や国内避難民への緊急支援も開始し、避難先で直面する食料や言葉の問題、精神面の支援などについて聞きました。また、日本の難民問題の現状も聞き、問題の深さを痛感しました。



ウクライナの難民、国内避難民は1500万人（6月21日現在）を超える人口の約3割が家を追われていると知りました



親子で学ぶ 品川が空襲で焼け野原になった

8月26日

品川委員会

品川にも空襲がありました。22万人が罹災した1945年5月24日の城南空襲のことを知り、子どもたちにも伝えたいと企画しました。

はじめに、当時13歳だった作者が、50年の歳月を経て、自身の空襲体験を伝えようとして描いた絵と文と、その朗読などで構成されたDVD「知っていますか　あの戦争のこと　品川が焼け野原になった一小島さんの体験画を見てー」を視聴。当時の状況が克明に再現された絵や語りが、参加者の心に迫ります。



アメリカ軍の爆撃機520機が、3,646tの焼夷弾を投下。規模は3月10日よりも大きく、当時の荏原区、品川区、大森区、目黒区、渋谷区などが焼け野原に